

SAICM の概要

1. 概要

第1回国際化学物質管理会議で採択された「国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ」(Strategic Approach to International Chemicals Management, SAICM)。

SAICM は、2020年までに化学物質が健康や環境への影響を最小とする方法で生産・使用されるようにすることを目標とし、科学的なリスク評価に基づくリスク削減、予防的アプローチ、有害化学物質に関する情報の収集と提供、各国における化学物質管理体制の整備、途上国に対する技術協力の推進などを進めることを定めたもの。

2. SAICM 策定に至る経緯

- 2002年9月、ヨハネスブルグサミット(WSSD)で定められた実施計画において、2020年までに化学物質の製造と使用による人の健康と環境への悪影響の最小化を目指し、SAICM を2005年末までに取りまとめることとされた。
- 2006年2月、第1回国際化学物質管理会議(ICCM)がドバイで開催され、SAICM を採択。

3. SAICM の概要

SAICM は、「国際的な化学物質管理に関するドバイ宣言」、「包括的方針戦略」と、これらに関するガイダンス文書「世界行動計画」の三つの文書よりなる。

(1) 国際的な化学物質管理に関するドバイ宣言

以下の事項を含む30項目からなる宣言。

- ・ 地球規模の化学物質の生産・使用、特に途上国における化学物質管理の負荷の増大により、社会の化学物質管理の方法に根本的な改革が必要
- ・ ヨハネスブルグ実施計画の2020年目標を確認
- ・ 子供、胎児、脆弱な集団を保護
- ・ 化学物質のライフサイクル全般にわたる情報及び知識を、公衆に利用可能とする
- ・ 国の政策、計画、国連機関の作業プログラムの中に、SAICM を統合

(2) 包括的方針戦略

SAICM の対象範囲、必要性、目的、財政的事項、原則とアプローチ、実施と進捗の評価について定めた文書。

(3) 世界行動計画

SAICM の目的を達成するために関係者がとりうる行動についてのガイダンス文書として、273の行動項目をリストアップ。実施主体、スケジュールなどが示唆されている。

4. SAICM に関する取組

第2回国際化学物質管理会議(2009年5月ジュネーブ)ではSAICMの実施状況のレビューが行われるとともに、「ナノテクノロジー及びナノ材料」、「製品中化学物質」等の「新規の課題」が選定されました。また、2012年5月に予定されている第3回国際化学物質管理会議の準備のため、本年8月には公開作業部会(OEWG)が開催される予定です。

我が国では、環境基本計画にSAICMを位置付けるとともに、化学物質関連法規の見直しや関連する施策の推進等を行っています。また、途上国における化学物質管理政策立案及び実施の支援等を行っています。